

令和 7 年度第 1 回松江市公共交通利用促進市民会議
第 6 回公共交通で暮らしやすい未来を実現する PT 意見概要

○開始日時：2025 年 5 月 19 日（月）10:00～12:00

○開会

- ・会長あいさつ
- ・新規構成員、事務局紹介

○議題 1) 令和 6 年度事業報告・決算報告

- ～事務局より説明～
- ・異議なし

○議題 2) 役員選出

- ～事務局より説明～
- ・異議なし

○議題 3) 令和 7 年度事業計画・予算（案）

- ～事務局より説明～

（松江市交通局_須山局長）

- ・市民会議とプロジェクトチームの合同開催だけでなく、プロジェクトチームの単独開催で詳細な審議を行い、その結果をもって市民会議にあげるスケジュールも必要ではないか。具体的には、9 月までのところでプロジェクトチームを開催いただきたい。
- ・運賃改定について、市民の代表である皆さんのご意見を伺いながら進めていきたい。
→ワーキンググループを密に開催したいと考えており、その場にアドバイザーはじめ関係の皆様に出席してもらうなどの進め方を念頭においていた。9 月までのプロジェクトチームの開催については、事務局で改めて検討する。
運賃改定については、市民の皆様への発信を含めて、一畑バス、交通局と密に連携を図ってまいりたい。

（連合島根_丸山執行委員）

- ・スケジュールは十分に理解した上で、路線再編や共同経営計画策定など、ハードルの高いものだと感じている。
- ・利用する側としては、路線再編が非常に気になっている。平成 18 年の路線再編の議論からあまり進展がないと感じているので、前に前に進めていただきたい。
- ・時差出勤に対応できる市内の企業は限られている。コロナ禍以前に取り組んでいた、ノーマイカーウィークに取り組んでほしい。
- ・路線バス事業者の「役割分担」の文言の使い方がよろしくない。総動員することが必要で「役割分

担」ではなく、「共同経営」のステージである。

→いただいた意見を参考にし、絵空事で終わらず「実行」に移していきたい。

減便した現在の運行状況で、ノーマイカーウィークを実施すると、積み残しなどキャパオーバーになってしまう。そのため、朝の利用を分散するため、まずは時差出勤に取り組んでいきたいと考えている。

路線バスワーキングにおいては、各路線をどちらが担うかを一旦置いておいたうえで、「あたかも一社」の考え方のもと、最適な路線編成について議論をおこなっている。

(一畑バス_吉田社長)

- ・利用促進のうち、スサノオマジックとの連携事業について。来シーズンのホームグランド利用は、出雲市「カミアリーナ」が予定されており、当グループの一畑電車の活用を検討されたい。

(島根大学_飯野教授)

- ・平成 18 年の議論では、将来の 1 社化を諮問したが、当時の市長から、当分の間、2 社体制でやってほしいとの返答を受けた。
- ・ただ、利用者を増やさないといけないということで、1 週間のなかで、車から公共交通へ転換ができないか体験してもらうノーマイカーウィークを実施した。当時の交通政策課の皆さんには市内の事業所を 100 以上回るなど、汗をかいていただいたことが利用促進につながった。
- ・運転者不足でバスの便数を増やすことができない現状からすると、時差出勤に取り組むべきだと考えている。
- ・共同経営計画策定についても、ようやく本腰入れてやれるようになったと感じている。

(広島経済大学_加藤会長)

- ・時差出勤の取組みなども利用促進のスケジュールに落とし込んではどうかと感じた。
- ・スケジュールについて立地適正化計画とあるが、補足で説明いただけるか。
→現在の立地適正化計画は平成 30 年に策定したが、大幅な改定を今年度、来年度で行う予定。
また、社会資本整備総合交付金の活用にあたっては、利便増進計画にあわせ立地適正化計画など関連分野の行政計画への反映を求められている。

(島根大学_飯野先生)

- ・立地適正化計画と交通計画が対立した場合はどうなるか。
→今般の本市の土地利用制度の変更によっても、公共交通をまちの骨格に、路線のないところは開発しないという考え方はゆるがないため、齟齬は生じないものと考えている。

(国土交通省_倉石課長)

- ・松江市は、共同経営計画、自動運転など本当に様々な取組みを進めている。ただし、公共交通施策の中で松江市といえばコレ、という一つの商品化、ブランディングが必要ではないか。
- ・例えば、茨城県の境町と言え「自動運転」のまち、長野県伊那市と言え「医療版マース」など、松江市の取組みを全国に売りだしていくためシンボリックなものを作ることを提案したい。

- ・こうした発信を通じて、例えばふるさと納税の増加など、財源調達にもつながる可能性がある。

(松江高専_三谷先生)

- ・取組みのベースには、データ活用が必要と認識。
- ・AI デマンドバスを含めたコミバスの在り方検討にも関わらせてもらっているが、ここでもデータをベースとした地道な議論が不可欠。

(松江市教育委員_原田委員)

- ・スケジュールを見て、市民の知り得ない深いところの議論をしていると感じた。
- ・大きな課題があって、令和6年度はどこまで進んで、令和7年度はそれを踏まえてどこまで進めるという全体的なものが見えると、市民にもわかりやすいと感じた。
- ・SNS を活用した情報発信では人材確保だけではない多様な発信も必要と感じた。

(呉高専_神田先生)

- ・スケジュールはキツイと思うが、是非やりきっていただきたい。
- ・スケジュールを進めていくうえでの関係者とのやりとりの中で「気づき」がでてくるので、要所、要所で立ち止まって、今何しているんだっけ？という原点に立ち返った整理を都度行うことが重要。
- ・整理せずに進めてしまうと、アウトプットが細々したものになってしまう。
- ・まちづくりという大きな枠組みの中で、公共交通の意味、可能性を見出し発信し、この場にいる皆さんがプレイヤーとなって取り組んでいけるようにしていただきたい。

○議題 4) 自動運転実証運行に向けた取組み

～事務局から説明～

(広島経済大学_加藤会長)

- ・自動運転の車両はどのようなものを考えているか。
→今年度事業としては、運行事業者となる先進モビリティが用意する EV バスを想定している。
- ・実証運行が秋ごろとなっているが、松江市のユニークネスである降雪地域での運行を満たすことができるか。
→実証運行にあたっては、秋ごろから冬となっている。降雪状況によっては（雪が降らない場合）運行期間を延長する可能性がある。

○その他① 松江市地域公共交通利便増進実施計画策定業務プロポーザル審査委員会の結果について

～事務局から報告～

○その他② 地域生活圏について

～国土交通省_倉石課長より説明～

○全体をとおして

(公民館長会_三宅副会長)

- ・ やっと動き出してきたな、という印象。
- ・ 行政に欠けるのはスピード感と柔軟性。
- ・ 事務局の体制も強化され、事業計画が実行できるように努めてほしい。
- ・ 欠けている部分としては、トップの顔が見ないこと。今回のビッグプロジェクトを今後進めていくうえではトップの動きが与える市民への影響力は大きく、発信力も強い。
- ・ もうひとつは、議員の顔が見ない。条例制定については、議員立法で制定すべき。
- ・ 市民への説明と同時に、議員にも協力いただき、市長と議員が一体となって取組んでほしい。